

上郷地区 地域バス導入検討のためのアンケート調査 報告概要

【末野原地域版】

【調査の概要】

◆ 調査目的

上郷地区では運行計画段階より地域が主体となって運営していく地域バスの新規導入を検討している。地域が本当に必要とし、利便性の高い地域公共交通を創り上げるためには、地域住民と市との共働によって、運行コンセプト、運行頻度（運行曜日、時間）、ルート、運賃等の設定などを検討していく必要があり、その第一段階として、現在の公共交通の利用状況やバスに対する潜在的なニーズを適切に把握することが重要である。本調査では、上郷地区内の地域バスの導入検討のため、地域住民を対象としたアンケートの実施により、地域バス導入に関する意識を把握し、導入検討に向けた基本事項を抽出、整理することを目的とする。

◆ 調査方法

表 調査方法

調査時期	平成 21 年 12 月
調査対象	豊田市上郷地区に居住する中学生以上の住民
配布・回収方法	自治区長経由にて 1 世帯あたり 2 部ずつ配布 自治区長経由にて回収
回収数/配布数	5,193/18,644 (回収率 27.9%)
調査内容	・ 個人属性 ・ 豊田市における地域バスの認知度 ・ 普段の外出状況 ・ 地域バスの利用可能性 ・ 地域バスの利用内容

配布数は、平成 21 年 4 月現在の世帯数（出典：平成 21 年度自治区加入世帯数報告）を 2 倍した参考数値。

【調査結果】

◆ 運行の必要性

全体傾向として、5年以内には利用する意向のある人が40%、5年以上先を見据えた場合は65%と、地域バスに対するニーズは高いため、地域バスの運行は前向きに検討していくことがよいものと思われる(図-1)。

◆ ターゲット

両地域とも、19歳以下と65歳以上で、5年以内に利用する意向のある人の割合が高く、運転免許・自動車を持っていない人の利用希望が非常に強くなっている(図-1)。想定する利用目的としては、若年層は通学、高齢層は通院目的が主である。

非沿線自治区では、駅までの交通手段が「自動車(自分で運転)」「自動車(送迎)」が多いことから、駅までの自動車利用の代替交通手段としての役割を果たすようなバス運行が望まれる(次頁の図-2)。

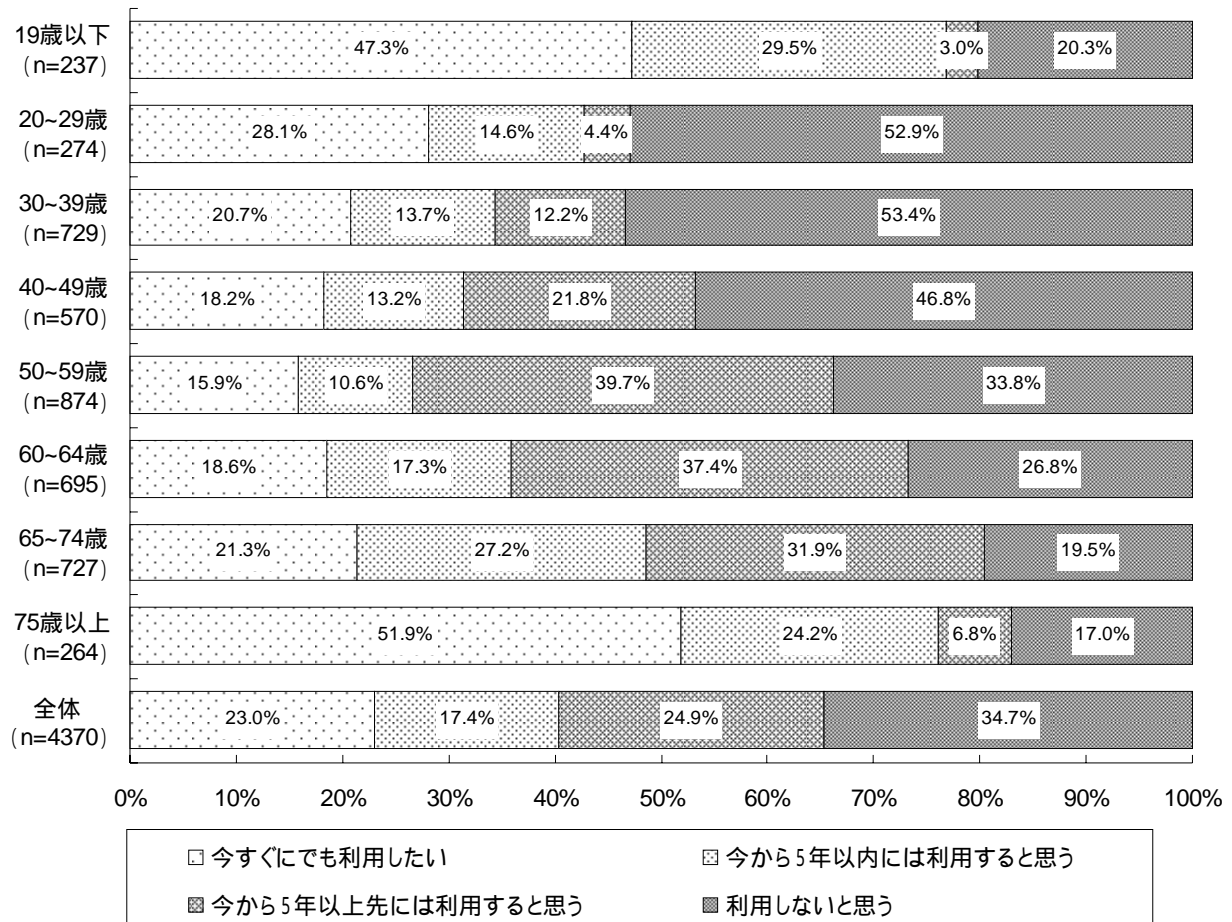
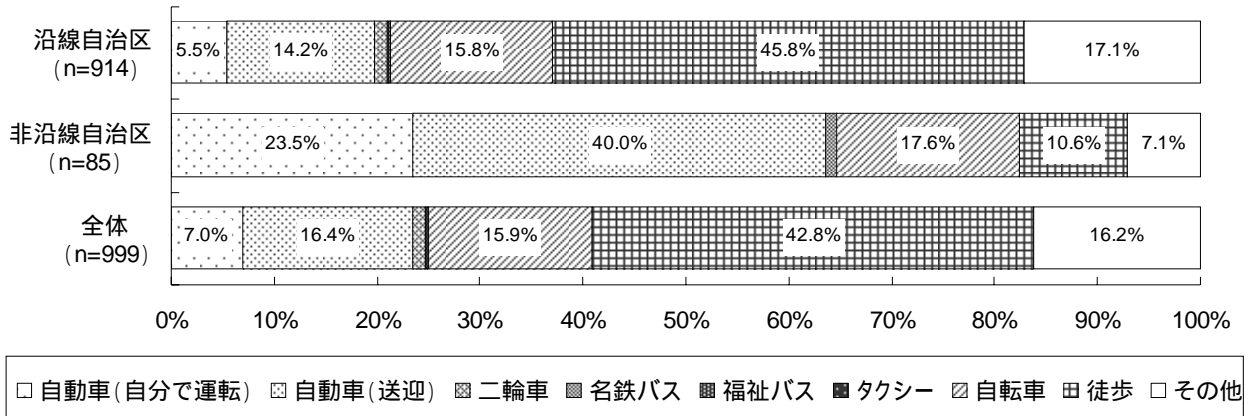


図-1 年齢層別の地域バスの利用可能性

◆ 運行頻度

「平日」「木曜日・土曜日」「日曜日」の順に利用希望が多く、曜日別にダイヤを効果的に設定することも有効であると思われる（図-3）。平日は、例えば様々な目的の利用が集中する午前中を基本とし、午後は週あたりの利用回数の高い通学利用者を軸に、通院利用者・買い物利用者の想定される利用状況を詳細に検討することが望まれる。土曜日、日曜日は買い物や趣味・娯楽といった非日常的な利用が考えられるため、地域バスでどこまでの利用を対象とするかを慎重に検討することが重要である。



「沿線自治区」とは、愛知環状鉄道の駅から1km圏内に区域の多くが含まれる自治区を指し、「非沿線自治区」とはそうではない自治区を指す。

図-2 自治区別の駅までの交通手段（行き）

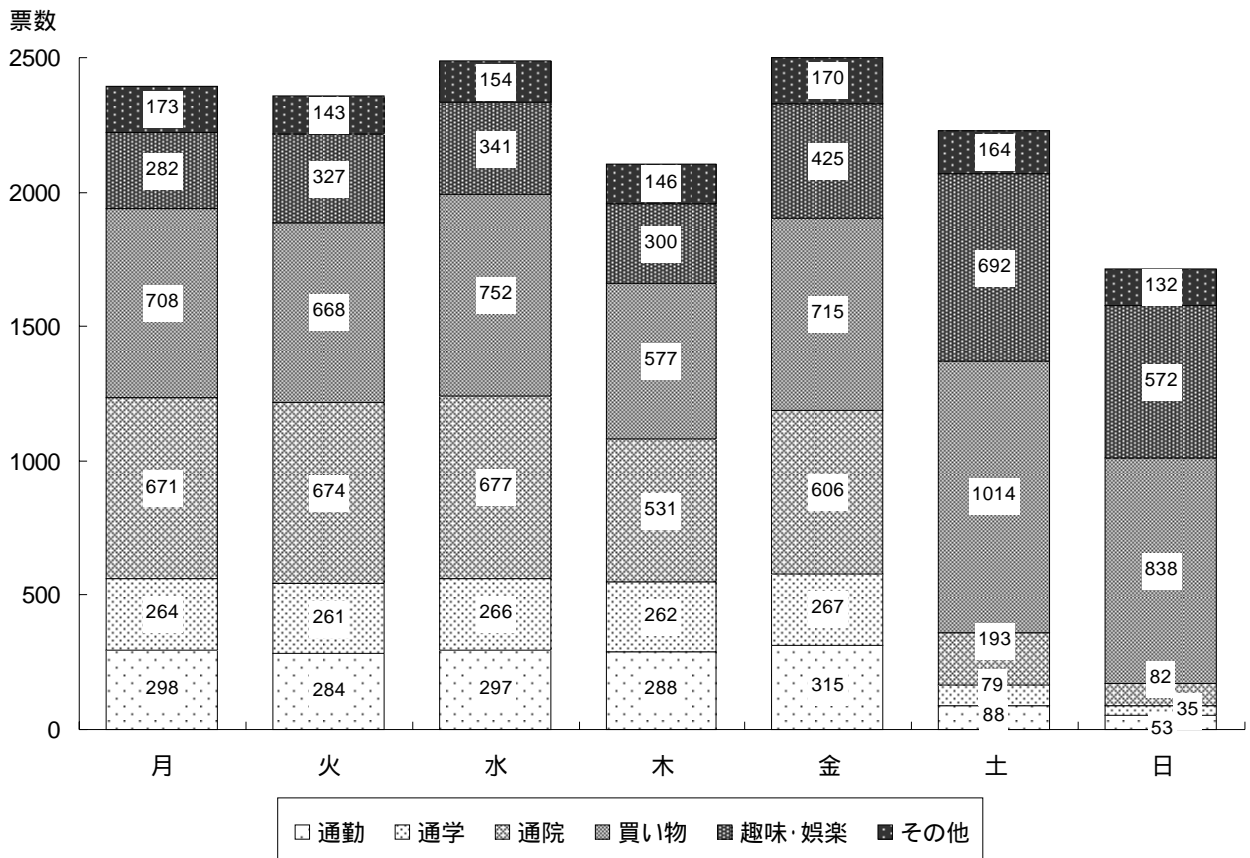


図-3 移動目的別の地域バス利用曜日

◆ 運行ルートとバス停位置

詳細なルートおよびバス停位置は、次年度の検討事項であるが、ニーズの高い施設を効率的に結ぶルート、バス停位置を検討する必要がある。また、上郷地区外への利用ニーズに対してどのように対応するか検討する必要もある（図-4）。

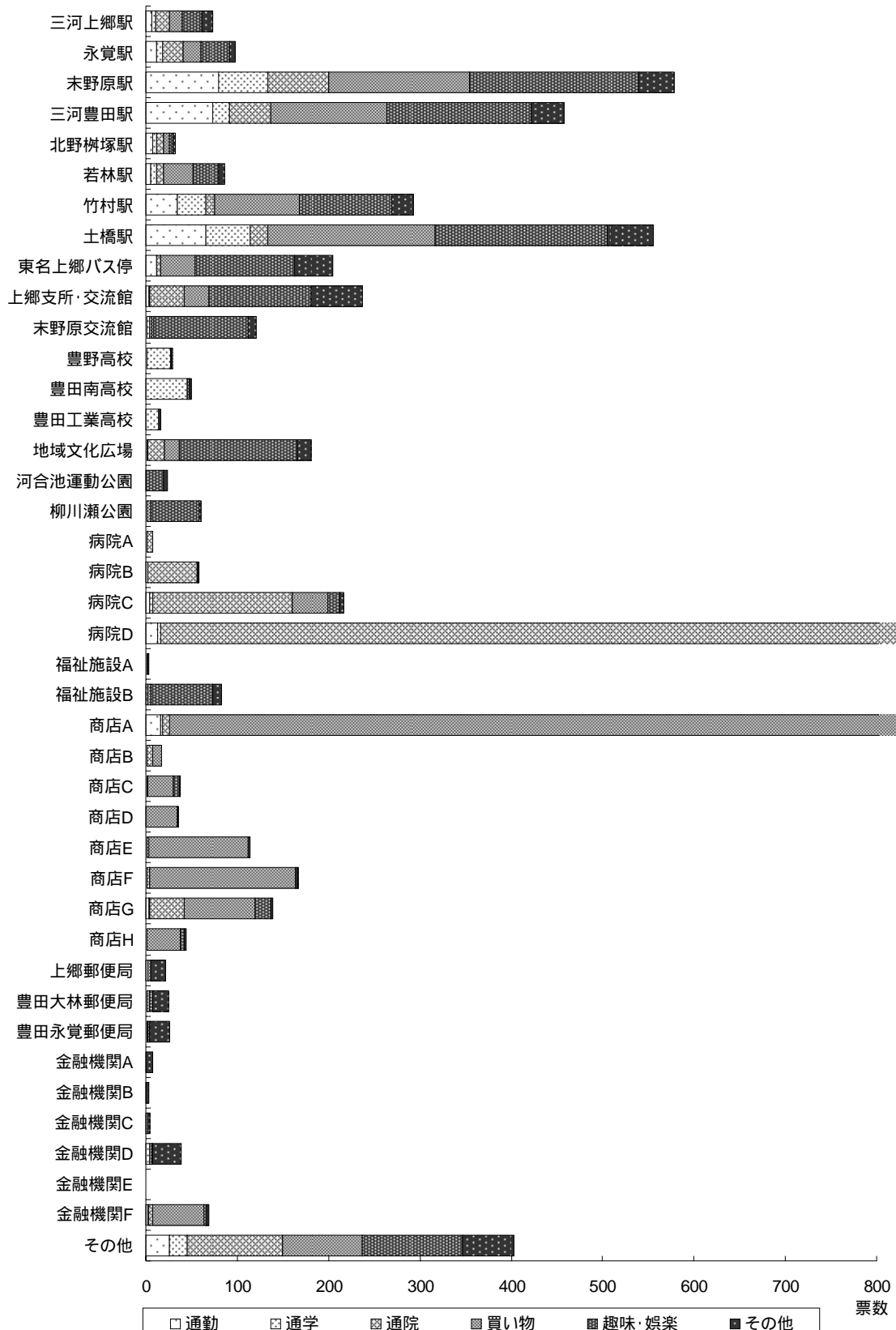


図-4 移動目的別の地域バス利用先